

## 「ネルソン・マンデラ 統合の象徴」



2月は「平和構築と紛争予防」月間です。

昨年末、アメリカ大統領選挙が行なわれました。

あの民主主義大国アメリカで、今にも内戦が起こりそうな映像をみて、衝撃を受けました。いい意味で人種のるつぼと言われ繁栄してきた国の、分断の深刻さを目の当たりにして、今後の世界の動向が心配になります。

そして、一人のヒーローが思い浮かびました。

南アフリカ共和国初代大統領のネルソン・マンデラ氏です。

27年半、日数にして一万日は反アパルトヘイト(人種隔離)運動を率いたマンデラ氏の投獄期間です。家族や同志は迫害され、母の病死、長男の事故死を塙の中で知りました。嘆願した葬儀への参列もかなうことはなかったのです。

だが、言語に絶する地獄のような苦しみを味わっても、氏は希望を失わず、全ての人種が平和に暮らせる「虹の国」を築く・心には大いなる理想の炎が燃え続けていたのです。獄中で氏はつづっています。「愚弄されても、屈辱をうけても、敗北を喫してもくじけない人に、荣誉は与えられます」氏の静かなる闘争は、同胞を奮い立たせました。それはやがて国際社会をも動かし、アパルトヘイト撤廃への大きなうねりとなったのです。

そして1990年2月11日。ついに釈放の日がやってきました。

しかしマンデラ氏にとって「闘争」は、釈放されてからが本番でした。

人種対立が激化するなど、課題は山積みで、黒人の復讐が始まるとの懸念が広がったが、氏は対話の力で融和の道を探りました。「どんな相手でも、たとえ看守だろうと、考え方が変わる余地があるのだから、あらゆる手段を尽くして揺り動かしていくべきなのだ」・これが監獄で培った氏の確信でした。

粘り強い対話の末に、1991年にアパルトヘイト関連法は廃止されました。

94年には南アフリカ初の全人種参加の選挙が実施され、マンデラ氏が大統領に選出されました。

氏は就任式で訴えました。

「絶対に、二度とふたたび、この美しい国で、人が人を抑圧するようなことがくり返されてはなりません」と。しかし、人種間にはぬぐいがたい不信が残ったままでした。そこで、氏は黒人解放運動のシンボルである歌とアパルトヘイト時代の国歌をつなぎ合わせた新国歌の作成や、新たな国旗の制定など「あらゆる手段」を講じていきました。

その一つの成果が、95年に開催されたラグビーワールドカップの南アフリカ大会でした。

同国においてラグビーは「白人のスポーツ」でした。

「スプリングボックス」の愛称で親しまれる代表チームは、それまではアパルトヘイトの象徴でもあったのです。氏はチームカラーの「緑と黄金色」の帽子をかぶり、最前線で応援しました。

代表のスローガンは「一つのチーム、一つの国」です。その人気は勝ち進むにつれ、人種を問わず高まっていきました。試合の日には黒人居住区でも人影が消えるといわれるほど、多くの国民がテレビの前で声援を送ったのです。迎えた決勝戦では、スプリングボックスは強豪ニュージーランドに競り勝ち、初優勝を飾りました。スタジアムでは至る所で新国歌が高らかに歌われ、白人と黒人が一つになった大会は、「虹の国」実現への確かな一歩となったのです。

